



教育センター・育成センター所報

GALILEI



柏崎市刈羽郡教職員理科研究発表会、理科師範授業・講演会
(師範授業講師:筑波大学附属小学校教員 佐々木昭弘 様)

1月14日(木) 会場:柏崎小学校

CONTENTS

○今月の巻頭言…………… P 1

★印象に残っている2つの話

教育センター運営委員

子育て支援センター所長 齋藤 栄一

○教育センターだより…………… P 2

★アクセス(教育研究班)…………… P 2

★プロジェクト K(科学技術教育センター)…………… P 6

★心の窓(教育相談班)…………… P 8

○2月の行事予定表…………… P 10

○所員随想「つれづれ」…………… P 10

★除雪を考える…………… 教育センター所長 西谷 博厚

平成28年1月号

柏崎市立教育センター 柏崎市青少年育成センター

印象に残っている2つの話

教育センター運営委員
子育て支援センター
所長 齋藤 栄一



しあわせ（幸せ）に関して、印象に残っている2つの話があります。

1つ目は、一般財団法人児童健全育成推進財団 理事長 鈴木一光さんの話です。3年前の同財団の会員総会でのあいさつでした。

人は「幸せ」になるために生きています。この「しあわせ」という言葉は、室町時代頃から使われ始めたと言われています。「為る（しる）」と「合わせる（あはせる）」がひとつになり「仕合せ（しあわせ）」との言葉（名詞）ができました。この頃は「めぐり合わせ」という意味で用いられ「しあわせが良い」と言うと「めぐり合わせが良い」こと（意味）になります。その後、「めぐり合わせが良い状態」を表すようになり、さらに今の「幸福」の意味で用いるようになりました。人は、特に子どもたちは、良い人（大人）とめぐり会うことで人生が変わります。私たちは、子どもたちが多くの良い大人（子どもたちがなりたいと思う大人）とめぐり会えるよう活動を模索しています。

2つ目は、J S パートナー株式会社 代表取締役 福島文二郎さん（元東京ディズニーランドの人材育成担当）の話です。平成23年度の全国児童館長研修会の記念講演で、概要は次のとおりです。

東京ディズニーランドでは、すべてのゲスト（顧客）にハピネス（幸せ）を提供するというミッションがあります。その実現ためにキャスト（従業員）と4つの約束をしています。1 安全のためのルールを守ること、2 親しみのある礼儀正しさの実行（あいさつ、笑顔、アイコンタクト）、3 身だしなみに気を付けること、4 チーム内での自分の役割を果たすこと（チームワークによる相乗効果）です。そして、その上でゲストへの、ホスピタリティ（相手への思いやり）がとても大切になります。相手への思いやりは、信頼（人脈）を得ることにつながります。そして、ゲストから受ける感謝の言葉（気持ち）は、キャストの成長や生きがいと誇りを持って仕事をするにつながります。実際に現場で受けることのできるおもてなしの多くは、キャスト自らが考えトレーニングプランを作成し実施しているものです。

古の人々は、良い人との出会いが幸せにつながることを経験から承知していたのでしょうか。また、現在のテーマパークにおいては、義務を伴うサービスではなく、相手への思いやりが、相互に幸せを運ぶと考えています。この2つの話は、子どもたちに接する大人のあるべき姿を示唆してくれます。

私は、縁あって昨年の4月、子育て支援センターに配属になりました。当センターは、妊娠期から出産、子育て期にわたる切れ目のない支援を業務としており、子どもたちとご家族に接する機会が多い職場です。縦割りの行政に慣れている私は、センターの職員がひとつのチームとして、係の枠を超えて子どもたちの支援をしていることに、当初より感心しています。また、女性が多い職場であり、相談の一つひとつに丁寧に対応し、ご家族と信頼関係を築いています。

私自身は、先の2つの話を、仕事をする上での規範としています。子どもたちの健やかな成長を、職員と共に応援して参ります。

■研修講座

一コマを深掘りし、追質問することで、当時の思いを受け止め、語り継ぐ必要性を感じる…

◆12/17（木）「まちから」震災メモリアル施設活用研究

数秒の映像から…、一枚の写真から…、数行の文から…

この講座は、昨年11月にオープンした市民活動センター中越沖メモリアル施設「まちから」を会場に、展示内容を学校教育へどう活用していくか、などを考える目的で開催しました。

「まちから」には3つの取組「語り部プログラム」「自主防災プログラム」「防災教育プログラム」があります。しかし、これらを教育（学校教育、社会教育）へ活用する際には、ただ、受け身で見学すればよい、ということではなく、利用者が自ら、展示や映像の奥にあるメッセージを深掘していくプロセスが必要だと考え、以下のような内容で行いました。



中学生だった時の経験を語る庭山さん



公助、共助、自助について語る布施さん



授業での活用を提案する田村さん



円卓会議を進める参加者のみなさん

第Ⅰ部「展示を通して震災や復旧・復興のプロセスを深掘する」

ここでは、まず、筑波匡介学芸員より2階の交流・活動ルームから1階の情報ルーム、工房などの施設概要の説明をいただき、その後、震災発生直後の地元FM局のアナウンサーの語りが流れる、臨場感一杯の地下シアターへ案内をしていただきました。そして、そこでは次の方々からお話をいただきました。

①震災当時中学生だった庭山倫子さんより

- ・当時、避難所で受けた先生方の心遣いが、自分の将来の進路を決めるきっかけとなったこと

②学校現場で他校の児童を受け入れた遠藤美代志さんより

- ・できるだけ震災前と同じような学校生活にしようとしたこと

③市民のために奔走した、当時、市民活動支援課長だった布施実さんより

- ・公助、共助、自助それぞれの動きと、特に公助にかかわるエピソード

これらについて、単に体験談を聞くだけでなく参加者が追質問を繰り返すことで、震災当時の状況の中、それぞれの立場での思いを受け止め、未来へ語り継いでいく必要感を感じるようになりました。

第Ⅱ部「学校教育への活用を考える」

ここでは、関谷央子地域防災力センターコーディネータより、これまでの経緯説明の説明や、学校での活用アイデアをグループワークで考えていく演習の紹介がありました。（写真右下：円卓会議で用いた円形段ボール「エンタくん」）その後、鯖石小学校、田村芳彦教諭より、小学校社会科での活用提案があり、最後に参加者が感想を展示パネルに設置して終了となりました。その際の感想として、

- ・災害時の公平性の大切さを学んだ。
- ・経験を次の世代に語り継ぎ、防災意識を高め、安心・安全な柏崎を教育で作っていきたい。
- ・あたりまえの“日常”の大切さを子どもに伝えたい。
- ・勉強の全てが命を守ること社会に役に立つことにつながることを知って欲しい。

など、今後の学校教育での活用が望まれる内容が多くありました。

■第2回生徒会交歓会で、柏崎刈羽地域中学生メディア宣言が採択されました

「中学生メディア共同宣言」そのものが大切なのではなく… ～この10か月間の取組～

教育委員会・柏崎市刈羽郡学校教育研究会特別活動部会

ここで紹介する、「柏崎・刈羽地区中学生メディア共同宣言」は、昨年2月の「柏崎の教育を語る会『子ども会議』」で中学生たちが発案し、6月に地域内の全中学校に呼びかけ、9月以降に各学校で話し合いをもち、12月に採択したものです。中学生たちの発想には以下の点で学ぶべき点が多くあり、それは小さな感動を覚えるほどでした。

1 中学生自身が発起した点

メディア機器についての意見交換から「他校の人と夜遅くまでラインをしてしまい生活が乱れる」「学習に集中できない」「仲間外れにされたりしないか心配」など、困っている様子が数多く出され、「学校を超え、この地域の全ての中学生でメディア共同宣言を作り、守っていこう！」ということになりました。

2 発起人が各学校の生徒会長へ呼びかけ、全中学校での取り組みをお願いした点

6月に発起人が集まり、各学校の生徒会長へ趣意書を送付し、7月の生徒会交歓会で役員の意識を高めました。そして、9～12月の間、全14中学校で計2000名の中学生がかかわって、宣言文に入りたい言葉を出し合い集約しました。



採択を進める、各学校の役員、約60名

3 12月の生徒会交歓会で白熱した議論の中、 原案を一言一句検討し採択した点

4 宣言文を作る途中で、常に中学生が大事にしようとしたことが4つあった点

- (1) 宣言文そのものよりも、作る過程でみんながかかわったということを大切にする。
- (2) 「使用は何時まで」ということより、「何のために」という目的を大切にする。
- (3) メディア機器との付き合い方を自分で具体的に考えたり、家庭・学校・地域などでのルール作りやその見直しをしたりするときの「指針」や「もと」になるものにする。
- (4) できるだけ「〇〇はしない、ダメ」という言い方でなく「〇〇します!」という言い方にする。

5 今後へ向けての思いを残した点

12月の生徒会交歓会での14か校の代表や発起人4名の感想発表などを次の文章にまとめました。

「この宣言をもとに、各学校や家庭、地域でのルールが守られているか、また、その見直しの必要はないかを、時々振り返ってください。そして、年月を経ても、『自分の生活を設計、行動していく』『学習の時間と質を確保する』『友達との望ましい関係を築く』ことを大事にしていきたいと思います。」と。

柏崎・刈羽地区 中学生メディア共同宣言

- | | |
|--|-----------------------|
| ① 自分の生活を設計、行動していくために…
メディア機器は親から借りているものという意識をもち、
「自分をコントロールして、けじめのある」生活をします。 | → 目的
→ 考え方
→ 行動 |
| ② 学習の時間や質を確保するために…
自分だけでなく友達の学習時間や質も大切にし、
「メディアと学習、それぞれの時間と場所を分け優先順位を考えた」生活をします。 | |
| ③ 友達との望ましい関係を築くために…
悪口を書いたり見逃したりすることのない関係をめざし、
「メディア機器の有無にかかわらず、直接顔を見て話す機会」を増やします。 | |

平成28年1月

新潟県柏崎・刈羽地区の中学生一同

■ 柏崎教育情報支援システム/コンテンツサーバ情報

資料を登録しました

◆ 柏崎教育情報支援システム

実施日	講座名／資料名
1/20	デジタルビデオ編集入門 デジタルビデオ編集入門.pdf (第4版)

■ 情報関連講習会のご案内

2月に実施される講習会

◆ H28.2.3(水) スクールオフィス成績管理小学校指導要録様式2作成講習

スクールオフィスの成績管理サブシステムにより、指導要録様式2を作成するための設定と、作成手順について学習します。この講座は小学校の教職員が対象です。

◆ H28.2.4(木) スクールオフィス成績管理中学校指導要録様式2作成講習

スクールオフィスの成績管理サブシステムにより、指導要録様式2を作成するための設定と、作成手順について学習します。この講座は中学校の教職員が対象です。

◆ H28.2.24(水) スクールオフィス年度更新講習

スクールオフィス管理者向けの講習です。次年度用データの準備手順、学校基本情報管理の年度更新作業、年度末や年度始めに必要な処理について学習します。管理者以外の方が受講していただいても構いませんので、管理者の役割を部分的に委譲する際の参考にさせていただきます。

◆ H28.2.25(木) 疑問やトラブルに答える フリーQ&A その9

ICT 活用に関すること、パソコンのトラブルや疑問など、自由に相談できる機会を設けました。他の講座のような事前申し込みは不要ですが、前日までにメールや電話で相談内容をご連絡ください。

■ スクールオフィス情報

学校閉鎖、学年閉鎖、学級閉鎖発生した場合の行事等の登録

(1) 学校閉鎖、学年閉鎖が発生した場合の登録

- ・「学校行事の設定」画面から、学校行事または学年行事として閉鎖情報(「〇〇による学校閉鎖」など)を登録します。このとき、「時間」の欄は「指定なし」に、「休み区分」を「休業日」にする必要があります。

(2) 学級閉鎖が発生した場合の登録

- ・必須ではありませんが、どのクラスが閉鎖になっているかがわかるように、「学校行事の設定」画面から、クラス行事として閉鎖情報(「〇〇による学級閉鎖」など)を登録します。このとき、「休み区分」は「設定なし」にする必要があります。
- ・保健管理の健康観察記録の「登録」画面から、当該クラスの全員を出席停止扱いにします。(「停・忌・公欠」をクリックして理由を選択します。なお、罹患者との区別は、健康観察記録のマスターで「停・忌・公欠」の名称と記号を区別できるように登録しておけば、「月別健康観察表」で確認することが可能です。出力される出席簿上では区別できません。)



■ セキュリティ情報

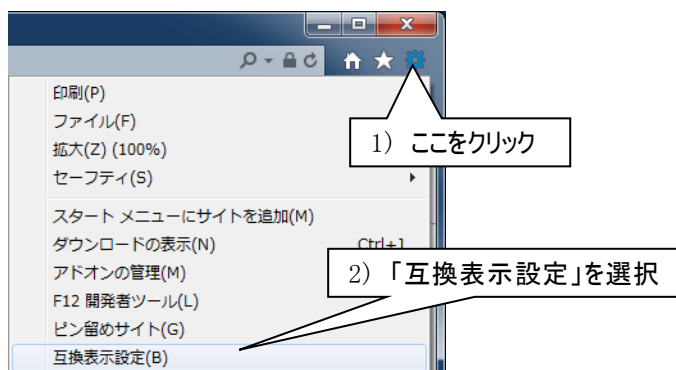
セキュリティホール情報

マイクロソフトより、1月13日付で1月の定期更新として、Windowsなどの重要な更新が公開されました。最大深刻度「緊急」が6件、「重要」が3件です。まだUpdateが済んでいないようでしたら、至急Windows Updateなどを実施していただくようお願いします。

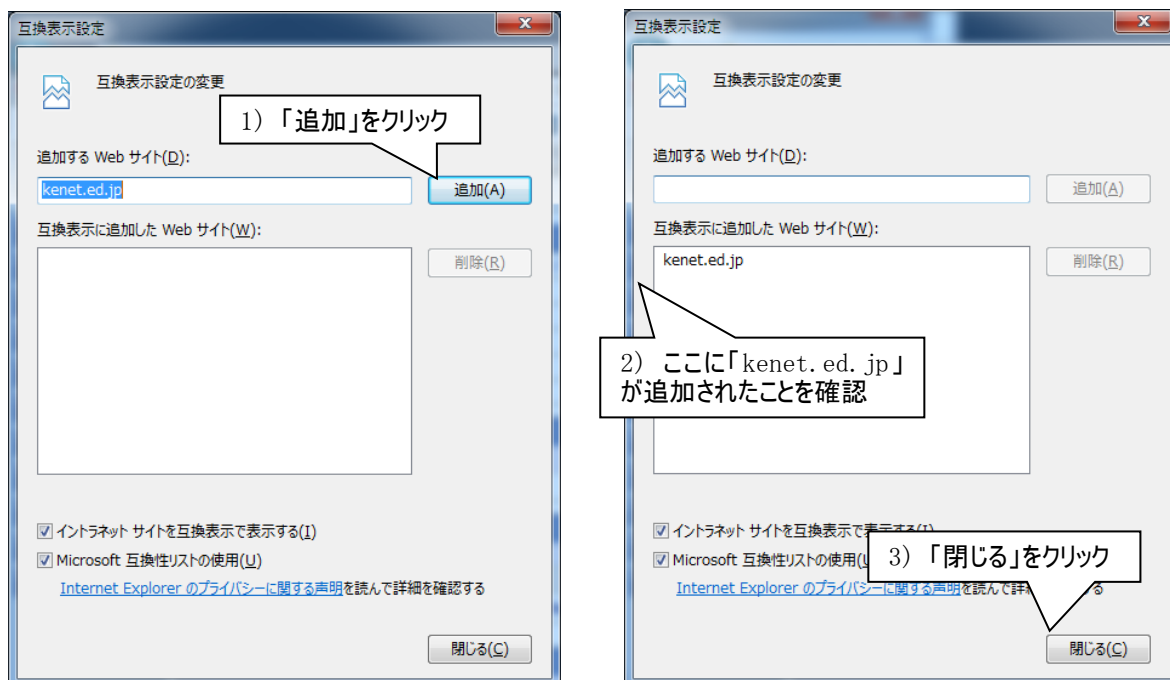
Internet Explorer のサポートが終了しました

Internet Explorer のサポート終了がメディアにも大きく取り上げられました。これまで、柏崎市の教育機関の環境ではIE10を使用しており、校務支援システムの動作上の問題からIE11へのバージョンアップを止めていましたが、概ね動作確認がとれましたので環境が整い次第、自動的にIE11へのバージョンアップが行われるようにする予定です。なお、単にIE11にただけでは、校務支援システムが正常に動作しませんので、自動更新による配布を待たずにIE11にバージョンアップしたい場合は、以下の設定を行ってください。（自動更新によるアップデートが行われる際は、以下の設定は自動的に行われます。）

①スクールオフィスのログイン画面で、「ツール」アイコンをクリックして「互換表示設定」を選択します。



②以下の様な画面が表示されますので、「追加」ボタンをクリックして「互換表示に追加した Web サイト」欄に「kenet.ed.jp」が追加されたことを確認し、「閉じる」ボタンをクリックします。





今年もよろしくお願ひします

旧年中は当センターの事業にご理解・ご協力いただき、ありがとうございました。本年も皆様のニーズにできるだけお応えできるよう、努力していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



【研修会・事業の様子】

○ 小5 もののとけ方

◇日 時 12月25日(金) 15:00～

◇講 師 刈羽村教育委員会 指導主事 小林 多佳子 様

◇内 容

ものが溶けるとはどのようなことなのか、粒子概念の見方、考え方を踏まえながら研修を行いました。食塩やミョウバンを溶かすうえでのポイントや、析出させるうえでの教材を紹介しました。

ポイントを指導する

小林先生



温め(保温)しながら溶かす実験

○ 小3 ものの重さを調べよう

◇日 時 1月19日(火) 15:00～

◇内 容

「直接比較」から「間接比較(数値比較)」へ移行しながら進めることが大切であり、それらの留意点やポイントについて研修しました。予想すること、体験することを通してものの形と重さ、体積と重さの関係の理解を図る学習のあり方について考えました。



てんびんで重さを比較します

<要請研修・研修サポート>

○ 荒浜小 放射線教育

◇12月17日(木)実施

原子力広報センターを会場として、5年生向けの放射線教育を行いました。霧箱を用いて放射線の飛ぶ様子を観察したり、ベータちゃんを用いて身の周りの線量を測定したりしました。また、放射線の特徴を学んだのち、その特徴を踏まえながら、放射線からの身の守り方を考えました。



ベータちゃんで放射線の量を

測定しました

【2月の研修会のご案内】

○ 柏崎高等学校 理数科 課題研究発表会

◇日 時 2月3日(水) 12:30～

◇会 場 アルフォーレ

◇内 容

スーパーサイエンスハイスクールに指定されている柏崎高等学校理数科の課題発表会です。先進的な理数教育の中、優れた測定機器を用い探究してきた生徒の発表です。小中高一貫した科学教育の先に目指す姿としても参考になります。



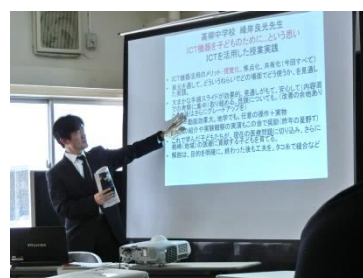
第28回柏崎市刈羽郡教職員理科研究発表会

◇1月14日（木） 9：45～12：20

指導者 柏崎市教育委員会 山田 智 指導主事

柏崎市刈羽郡学校教育研究部科学教育研究部主催の教職員理科研究発表会が行われました。今年度も同じ日の午後に理科師範授業の研修会があるため柏崎小学校で行いました。小中学校各4つずつの発表があり、教材観や指導観、児童生徒の意欲関心を高める工夫、児童生徒の思考の流れに合わせた単元構想、校内の理科環境整備などの発表が行われました。どれも今後やってみたいと感じるヒントとやる気をいただくものでした。地域の先生方の実践ということで、参加者からも「これはすぐに使えそうです」という声をたくさん聞きました。お互いに刺激のある、実り多い発表会でした。

＜実践発表と指導の様子＞



理科師範授業・講演会

◇1月14日（木） 13：35～16：30

講師 筑波大学附属小学校 教官 佐々木 昭弘 様

筑波大学附属小学校より佐々木昭弘先生をお招きして、柏崎小学校で師範授業とその後の講演会を行いました。師範授業は小学校3年「明かりをつけよう」の単元の発展的な内容でしていただきました。

最初に、銀紙は電気が通ることを確かめ、子どもたちに次のように投げかけました。『ここに金紙があります。銀紙と同じようにピカピカしていますね。この金紙は電気が通るでしょうか。』多くの児童は通ると予想してから、実験器で確かめましたが、ほとんどの児童が×（通らなかった）という結果でした。しかし、佐々木先生がやってみると豆電球が光りました。児童が「なんで。」「どうして。」と驚きながら声を出すと、佐々木先生は「答えは黒板の中にあるよ」と板書を示しました。児童は2度考えを覆され「どうして？」がかなり強められていました。このとき、児童は意味理解を深めていこう（志向）という気持ち生まれ、黒板に書かれていることと、佐々木先生の動作をよく見ながら、問題解決に向かい、金紙も電気が通るを見つけ出しました。



児童を集めて指導をする佐々木先生



協議会形式の講演会

授業後の講演会でも多くの意見交換をしながら、授業をする上でのテクニック、児童の意見・考えの導き出し方などを指導していただきました。参加者の多くから、実り多い授業・講演会であったとの感想を得ました。

授業後の講演会でも多くの意見交換をしながら、授業をする上でのテクニック、児童の意見・考えの導き出し方などを指導していただきました。参加者の多くから、実り多い授業・講演会であったとの感想を得ました。

心の窓

No.197

〒945-1355

柏崎市大字軽井川4803-2

TEL 0257 (23) 4591 (代表)

FAX 0257 (23) 4610

E-mail soudan@kenet.ed.jp

保護者面接で大切にしたいこと

もう、ずいぶん前の話です。あるお母さんが、私とのカウンセリングの中で、ポツリと呟きました。
「こんなことを学校の先生に言ったら、‘もんぺ’って言われちゃう…」。

皆さんは、‘もんぺ’と聞いて、何のことか分かりますか…？恥ずかしながら、私は全く分かりませんでした。どうやら、‘もんぺ’は‘モンスター・ペアレント’の省略語だそうです。ここまで説明してもらい、「それなら知っている」と頷いたのですが、目の前にいる控え目な女性と、モンペ（学校や教育委員会に対して理不尽な要求を繰り返す保護者 デジタル大辞泉）という言葉が、全く結びつかず、改めて頭をかしたのです。

私たちは、さまざまな保護者と面接をして、その人に合った対応をするように心がけていますが、反面、どの面接でも、共通して大切にしていることがあります。ごく基本的なことなので「当たり前」と思われるかもしれませんが、面接の基礎を支えている大切な要素だと思うのです。

（１）保護者が支援者に「話したい」と思えるような関係づくり

上述のお母さんは、対人関係を築くことが得意な方ではなく「こんなことを言ったら、変な親だと思われるんじゃないか」と心配して、学校に相談することをちゅうちょしていました。担任の先生など、相談できる相手は身近にいたのですが、このお母さんにとっては相手と関係を築くこと自体が難儀で、結局1人で悩んでいたのです。保護者の中には、関係づくりが得意な方もいらっしゃいますが、当然、苦手な方もいらっしゃいます。苦手な方には、支援者側から簡単な接点を持つなど、少しでもリードしながら関係を作り、相手が「何かあった時に、自分の話を聞いてくれるかも」「話したら分かってくれる人かも」と期待できる関係を築くことが大切です。

（２）保護者の感覚を尊重する姿勢

上述のお母さんは「もし、自分の考えや要望を先生に伝えたら、変な目で見られてしまうかも」「迷惑な親だと思われるかも」という不安があり、行動に移せずにいました。支援者側からすれば、「心配し過ぎなんじゃない？」「そんなことを心配するより、まずは相談してみれば良いのに…」と思うでしょう。しかし、このお母さんはそう心配しているのですから、支援者側はそれを疑問に思ったり否定したりせずに「どうしたら、この人の不安が少しでも解消されるだろうか？」「どういう声かけならできるだろうか？」と考えることが大切です。時々、病的な不安を抱えている方もいるので、寄り添う限度はありますが、自分と相手との感じ方・考え方が同じでない時、できれば自分の感覚をちょっと脇に置いて、相手の感覚を分かろうとしてみる。保護者の感覚を尊重しようとする支援者の姿勢が、保護者の「この人に、話してみよう」という前向きな姿勢につながり、そういう姿勢でのぞむ面接が、良い相談・良い支援につながっていくと思うのです。

（文責 教育相談係主査 佐藤郁代）



☆ふれあいルームより☆

☆スケート体験

県立アクアパークで12月17日と1月14日、スケートを思う存分体験をしました。多くの通級生が参加してくれました。初めてスケートに挑戦する子どもや小さい頃やったことのある子どもなどいろいろでしたが、氷を怖がらず積極的に練習していました。

フェンスからなかなか離れられない子どもや、リンクの中央まで滑って行ける子どもなどさまざまでしたが、みんな頑張って挑戦していました。滑り方を教えてくれる子どももいて、友達思いの、とても良いかかわりが見られました。



【仲良くかかわる】

2回目は、前よりも慣れたせいか、うまく滑る姿を見ることができました。ふれあいルームの通級生は、あまり運動が得意でない子どもが多いのですが、貸切り状態での体験のため、人目を気にせず仲間と練習できたことがよかったのだと思います。子どもたちの上達には、びっくりさせられました。

苦手なことや苦しいことも、少しでもできるようになれば、楽しいことやうれしいことに変わります。そういう機会をこれからも与えていきたいと思います。運動に関係する体験活動は少ないものの、スケートやスキートの体験ができるよう行事を設定しています。運動を通して仲間とのかかわりを深める姿を見ることができます。

柏崎にあるスポーツ施設を利用した活動は、とても有意義なものになります。これらの経験を活かして、家族で楽しむ機会があってもよいのではないのでしょうか。

(ふれあいルーム 神林 治男)

【教えあう】



教育相談班 2月の予定

《カウンセリングルーム》

いろいろ体験グループ (SST)

- | | | |
|--------|-------------|-----------|
| 5日(金) | 16:30~17:30 | 小学生Aグループ |
| 12日(金) | 16:30~17:30 | 小学生Bグループ |
| 19日(金) | 16:30~17:30 | 小学生Cグループ |
| 25日(木) | 18:30~20:00 | 中学生第1グループ |
| 26日(金) | 18:30~20:00 | 中学生第2グループ |



《ふれあいルーム》

- | | |
|--------|-------------|
| 10日(水) | スキー教室 |
| 19日(金) | バス課外活動 |
| 29日(月) | 3送会、中3生通級終了 |

2月の行事予定表		
日	曜	研修・行事・会議
1	月	
2	火	
3	水	科: 柏崎高等学校理数科課題研究発表会12:30-アルフォーレ 情: スクールオフィス成績管理小学校指導要録様式2作成講習
4	木	研: さわやか学校プロジェクト③ 情: スクールオフィス成績管理中学校指導要録様式2作成講習
5	金	相: いろいろ体験グループ小A 16:30-
6	土	
7	日	
8	月	努力点説明会13:30- 相: 班会議13:00-
9	火	情: 学びすっきりプロジェクト研究主任会③14:30-
10	水	ふ: スキー教室9:00-高柳ガルルスキー場
11	木	建国記念の日
12	金	ふ: ソフィアセンター10:00- 相: いろいろ体験グループ小B 16:30-
13	土	
14	日	
15	月	
16	火	
17	水	教育センター運営委員会9:00-
18	木	
19	金	ふ: バス課外活動9:00-新潟方面 相: いろいろ体験グループ小C 16:30- 青少年問題協議会9:30-
20	土	研: 柏崎の教育を語る会 柏崎一受けたい授業! 「未来の生き方を考える」 9:20-アルフォーレ
21	日	
22	月	
23	火	
24	水	情: スクールオフィス年度更新講習
25	木	相: いろいろ体験グループ中① 18:30-
26	金	研: webミュージアム研修 相: いろいろ体験グループ中② 18:30-
27	土	
28	日	
29	月	ふ: 三送会
研: 教育研究班 科: 科学技術教育 相: 教育相談班 ふ: ふれあいルーム 情: 情報教育研修 育: 育成センター		



除雪を考える

教育センター所長 西谷 博厚

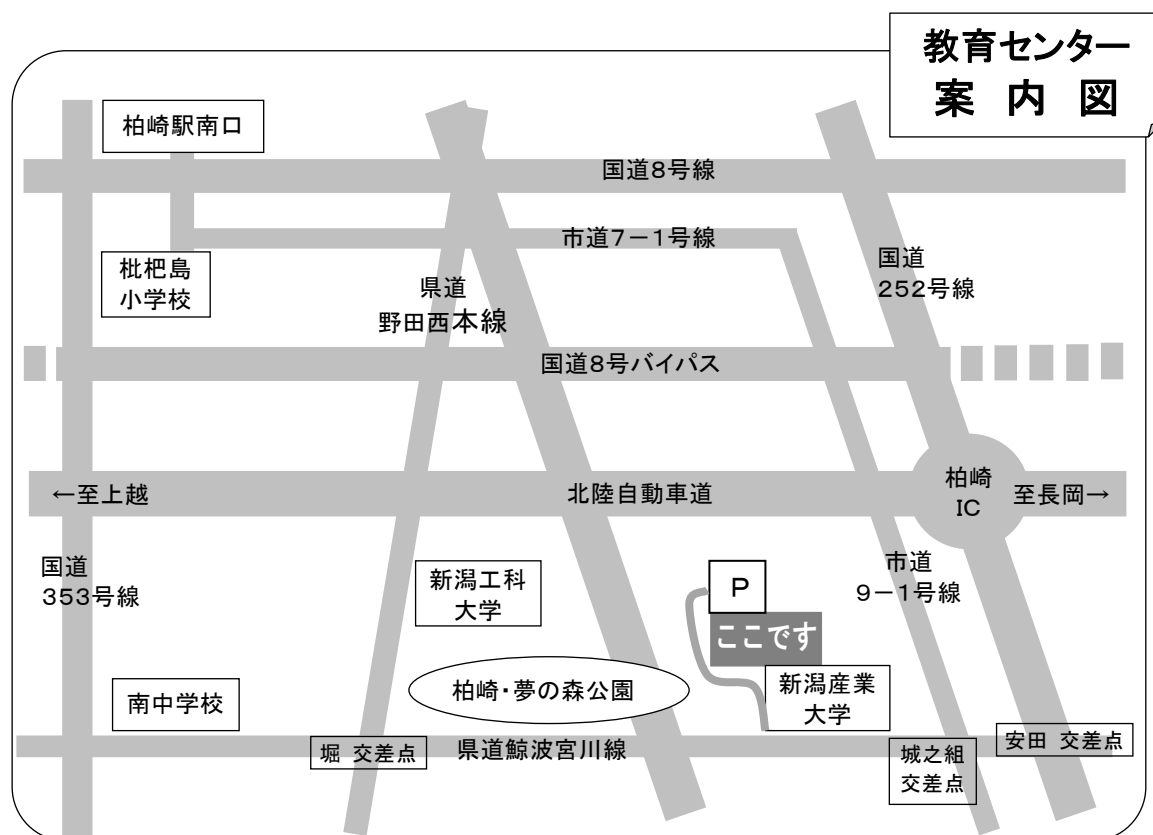
皆さんは道路除雪を誰がしているか考えたことがありますか？道路管理者の国、県、市町村が業者に委託して、除雪ドーザやロータリー車などの大型機械で除雪します。これにより、私達は昔のようにチェーン装着することなく通勤や買い物、仕事などに当たり前のように除雪された道路を通行します。

しかし、作業する方々は早朝1時前後から開始し、暗いため大雪や吹雪になると道路位置もわからない状態にもなる中、大変長い距離を通勤時間帯に間に合わせるため、必死で頑張ってくれます。やっと終わり疲れて戻ると、降り続く雪でまたすぐ出動ということもあるでしょう。

毎日、降雪予報を気にし、早く寝て深夜に状況確認して出動です。自然が相手ですから、出動判断は難しいと思います。1時頃確認して降っていないくても、3時4時頃から降り始めると苦情の嵐です。除雪に来ない！車庫前に雪を置くな！除雪がへた！など、交通確保のため、使命感をもって懸命に作業している方々が聞くとどんなふうに感じるでしょう。

家族も大変です。食事の支度や、大雪で毎日作業が続くと健康管理、事故も心配の種です。生活リズムをお父さんに合わせるとご家庭もあるでしょう。

後継者がいなく、オペレータが高齢化して大変だという話を聞きます。公共事業の減少で、建設業者の廃業という話も聞きます。この先、こんな大変な除雪作業をする方、担い手が不足したらどうなるか、心配なのは私だけでしょうか？



〒945-1355 柏崎市大字軽井川4803番地2（新潟産業大学キャンパス内）

※路線バスは、柏崎駅南口から新潟産業大学行きをご利用ください。

※車でお越しの方は、キャンパス内では徐行をお願いします。

教科書センター利用案内

柏崎刈羽の小中学校で使用している教科書のほか、全教科書会社の小中学校の教科書各2冊、高等学校の教科書各1冊を備え付けています。どなたでも閲覧することができますほか、小・中学校の教科書は貸し出しも行っています。

教育センター研修講座などのついでに、お気軽にご利用ください。

教育センター代表TEL：0257-23-4591

代表FAX：0257-23-4610

E-mail：k-center@city.kashiwazaki.lg.jp

教育研究班・情報教育TEL：0257-23-1168

E-mail：kec@kenet.ed.jp

教育研究班（科学技術教育）TEL：0257-20-0212

E-mail：kagaku@kenet.ed.jp

教育相談班（カウンセリングルーム）TEL：0257-32-3397

E-mail：soudan@kenet.ed.jp

教育相談班（いじめ不登校電話相談）

TEL：0257-22-4115

青少年育成センターTEL：0257-20-7601

E-mail：ikusei@city.kashiwazaki.lg.jp

教育情報支援システムURL：http://kedu.kenet.ed.jp

平成28年1月発行

=====